

一 大石備銀を億程

右淀屋九代續中山五代目は大石流を縁阻有之は内室
死を之節衣類道具衰之坪之内に埋り今夜塚出出時を
武万敷斗之由當二節右塚十九丈之由其外委の大坂を七
畝たらしのせ交りし荒りしを之通

室永四亥十月四日入夢内中國四國大地震関東八未年
地震をさし

十一月駿河富士山焼出甲列豆列亥列相列砂降其外関東
はし心残清と相列ハ他山を勝れ此山を砂除云作付山増大氷荒
あり田畑多し右考日記曰桓天天皇清宇延暦十九年

庚辰二月十四日四月十八日連富士山頂におのつる煙真々
煙々々々々々山を隠し夜ハ大乃光り天を如やう其音
雷乃ととと灰の降る雨乃ととと山下乃河水血乃ととと

同月廿六日駿府より後進

今廿二日油井神原長原大地震二十公程家一軒も残
震津中山廿二日六富士山南の方事ゆくと此ハ志は右
境間を焼之此其音野交直夜前後見へる山の極は
夕夜ハ砂之外赤く其上砂ふ石交り降り直ハ
ぬいよりよりゆりゆり道中通り富山近所ハ
見へる山の油井神原道より人々も入るも長年史友
乞ふたあり市多くハ絶入仕戸塚近焼石焼り
かたき破り中山惣焼中方雷震初仕此山